

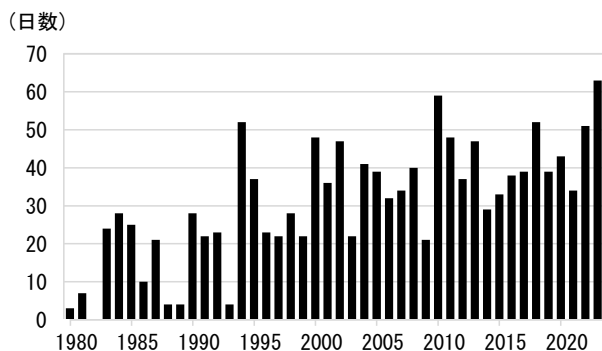
○ 夏の暑さに強い水稻新品種「愛知 135 号」が奨励品種に採用されました

秋は稲穂が黄金色に輝く、新米のおいしい季節です。水稻は県内全域で栽培されていますが、豊田市、西尾市などで収穫量が多くなっています。

表 水稻収穫量の多い市町村（令和4年産）

| | 市町村 | 収穫量(t) |
|---|-----|---------|
| 1 | 豊田市 | 11,300 |
| 2 | 西尾市 | 9,600 |
| 3 | 安城市 | 9,230 |
| | 県全体 | 130,800 |

水稻は、^{しゅつすい}出穂後 20 日間の平均気温が 27 度を上回ると、玄米のデンプンの蓄積が不足し、玄米が白濁して見える^{しろみじゅくりゅう}白未熟粒が発生しやすくなるとされています。



※ 気象庁データを集計して作成

豊田市における平均気温 27 度を上回る日数

米の生産量の多い豊田市においても、平均気温が 27 度を上回る日数が増えています。今後、気候変動により、県内全域でも平均気温が 27 度を上回る日数も増加すると考えられます。

こうした気候変動に適応するため、県農業総合試験場は、耐暑性があり、白未熟粒が発生しにくく玄米の外観品質が優れる新品種「愛知 135 号」を愛知県経済農業協同組合連合会と共同で 2020 年に開発しました。その後の審査を経て、県は、2023 年 9 月に「愛知 135 号」を奨励品種として採用しました。

奨励品種になると、県はその原種（生産者の栽培用種子を生産するための種子）等の生産及び安定供給を行うこととなります。「愛知 135 号」については、関係団体と連携し、2025 年度から生産者へ向けた種子の供給を開始する予定で、「あいちのこころ」という銘柄名で流通することになっています。

消費者が買えるようになるのはしばらく先になりますが、お店に「あいちのこころ」が並ぶ日を楽しみにしてください。



「愛知 135 号」の草姿

* 出穂
茎の中から、穂が出ること
「あいち 135 号」は 8 月中旬頃

「愛知 135 号」の詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/shoureihinshu-saiyou2023.html>)



環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)



適応とは、気候変動の影響に備えること。

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

